

McAfee MVISION ePO

シンプルな単一コンソールで可視性とコントロールを提供、またどこからでもアクセス可能

セキュリティ管理は複雑で、様々なツールとデータを駆使しなければなりません。サイバーセキュリティのプロフェッショナルには、セキュリティインフラストラクチャの管理やアップデートに割く時間はありません。また、脅威の検出や処理の実行などの重要なセキュリティタスクにフォーカスしなければなりません。他に時間をとられてこういった重要なタスクをしていないと、その間に攻撃者に重大なダメージを与えてしまいます。McAfee® MVISION ePolicy Orchestrator® (McAfee MVISION ePO™) ではオンプレミスのセキュリティインフラストラクチャのメンテナンスが必要なく、セキュリティプロフェッショナルはセキュリティにだけフォーカスできるようになります。認証情報を使って簡単にブラウザからセキュリティ管理ができます。

サイバーセキュリティ分野の人材が不足している現状では、サイバーセキュリティのオーケストレーションをシンプルにする手段が必要になっています。またあらゆる種類のデバイスに対する脅威に迅速に対応して、被害を最小限にとどめなければなりません。そのためには組織のセキュリティポスチャを良く理解することが必要です。これはリスク管理で一番重要なことです。McAfee MVISION ePO は McAfee ePO ソフトウェアのグローバルな複数テナント共有型の企業向け SaaS バージョンで、実績のある、他にはないセキュリティ管理プラットフォームです。

McAfee MVISION ePO を利用すると、時間のかかるオンプレミスのセキュリティ管理インフラストラクチャのメンテナンスが不要になります。これによって間違いが起こる可能性を減らし、またセキュリティをどこからでもより効率的に、より効果的に

管理できるようになります。McAfee MVISION ePO は McAfee® MVISION Endpoint 技術と連携して、Microsoft Windows OS に内蔵されたネイティブコントロールを管理することもできます。

不可欠なセキュリティ管理をシンプルに

デバイスとデータを監視してコントロールする機能は、セキュリティアプローチの中核となるもので、ITセキュリティコンプライアンスの基礎となります。Center for Internet Security (CIS) Controls and Benchmarks や、米国標準技術局 (NIST) の [SP800-53](#) セキュリティ及びプライバシーコントロールのような業界標準は、健全なセキュリティの要件としてサイバーセキュリティインフラストラクチャの監視とコントロールの必要性を挙げています。

主な特長

- 業界で高く評価されている集中管理
- オンプレミスのセキュリティプラットフォームの煩雑なメンテナンスが不要
- McAfee製品と Windows Defender のような OS のネイティブコントロールを管理する包括的なプラットフォーム
- 自動化ワークフローで効率的な管理タスクの実行
- インシデント調査と修正の効率化
- 市場シェアの大きいデバイスの一般的なセキュリティ管理
- 数百のデバイスから数千のデバイスまで様々な規模に対応。デバイスからクラウドまでカバー

McAfeeとつながる



データシート

McAfee MVISION ePO コンソールでは必要不可欠な可視性を入手でき、またポリシーの設定と自動実行が可能になります。これにより会社全体での健全なセキュリティ ポスチャを確保できます。統合された単一のインターフェースで会社全体でのポリシー管理と実行ができ、複数の製品のオーケストレーションの煩雑さに忙殺されることもなくなります。

保護ワークスペースはリスクをより効果的に管理するためにリスクの優先順位付けのサポートを行い、また、一つのビューでデジタル領域全体のセキュリティ ポスチャのサマリーを表示します。管理者は特定のイベントの内容を確認するために掘り下げて調査ができます。このサマリービューではレポートの作成や手持ちデータの合理化にかかる時間を削減でき、

アナリストは、多くの組織がMcAfeeを使い続けている理由は McAfee ePO ソフトウェアにあると説明しています。

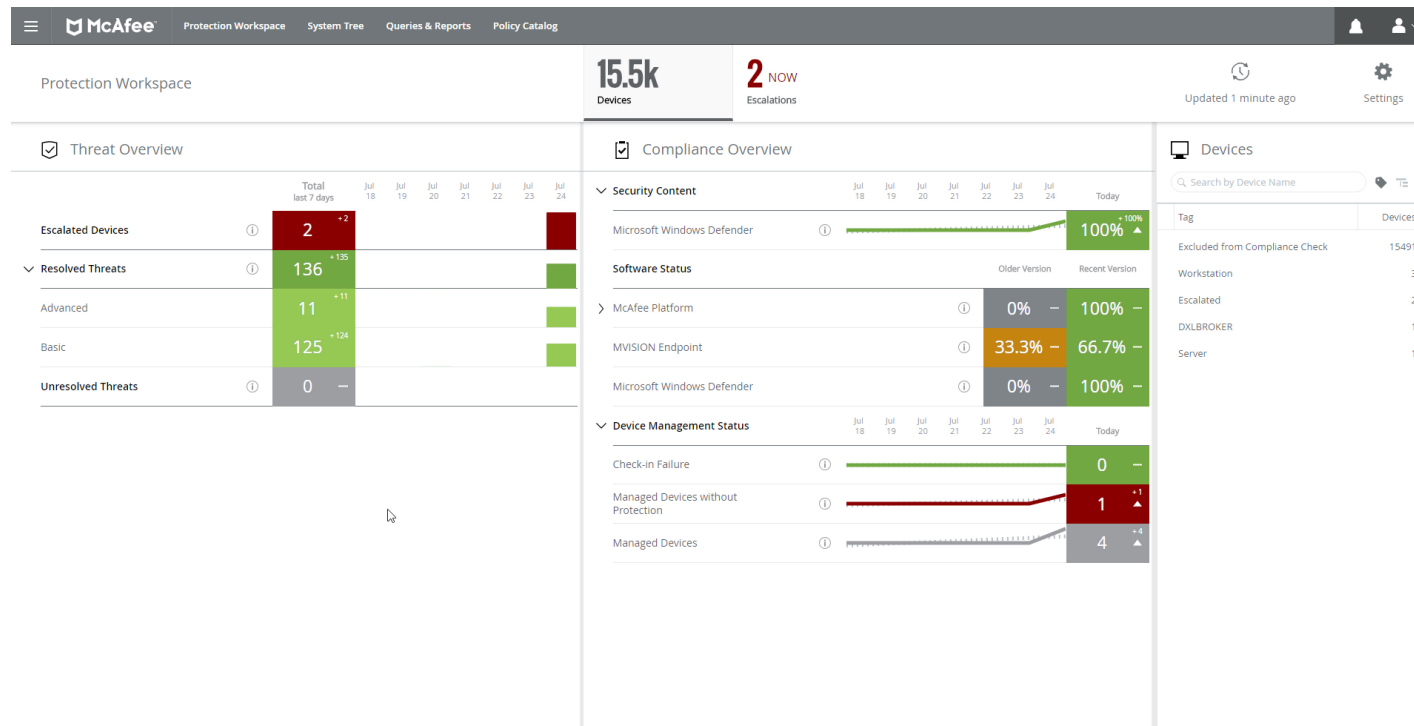


図 1 McAfee ePO 保護ワークスペース

データシート

またマニュアル作業での間違いが起こる可能性を減らします。[セキュリティリソース] ページでは、最新の脅威情報や研究成果をすぐに利用できます。SaaS オファリングの McAfee MVISION ePO ではセキュリティインフラストラクチャの設定やメンテナンスが不要なため、管理者はデバイスの監視とコントロールに集中することができます。プラットフォームは継続的にアップデートされ、管理者はその内容を確認することができます。デバイスセキュリティは自動的に会社全体に配備され、各デバイスに個別にマニュアルでインストールやアップデートをする必要はありません。またこれによって脅威に対してより強固な対策ができるようになります。McAfee MVISION ePO は 36,000 以上のお客様でインストールされた実績のある McAfee ePO ソフトウェア上に構築されています。お客様は McAfee ePO を使ってセキュリティの管理、効率化、そしてコンプライアンスプロセスの自動化を行い、社内の全デバイスへの可視性を高めています。

脅威分析の強化

McAfee MVISION ePO は効果と効率性を向上させるためにセキュリティ管理を統合できるように設計されています。McAfee MVISION ePO はリスク管理とインシデント分析が同時に行えます。デバイスは、セキュリティ情報及びイベント管理 (SIEM) ソリューションへ重要な情報を送り、アナリストはその情報を分析してさらに正確に脅威の確認や修正ができるようになります。

様々なデバイスのセキュリティ: ネイティブ セキュリティツールの管理

McAfee MVISION ePO の拡張可能なプラットフォームは、ネイティブ コントロール デバイスを含む複数のデバイスを管理します。最適化した保護を提供するため、Microsoft Windows 10 内蔵のセキュリティを強化及び共同管理し、ネ

ティブの Microsoft システム機能を活用できるようになります。McAfee MVISION ePO は McAfee MVISION Endpoint を管理して、Microsoft OS ネイティブのセキュリティ向けに調整された高度な機械学習を提供します。また、管理コンソールが増えないため、複雑性やコストの上昇を抑えられます。McAfee MVISION ePO は Microsoft Windows 10 デバイスと異種混合環境のすべてのデバイスに共有ポリシーを提供し、一貫性がありシンプルな管理を実現します。

自動化されたワークフローで時間の節減と安定性を実現

McAfee からの依頼で MSI リサーチが 2018 年に行った調査によると、企業は繰り返しのタスクを自動化すれば約 25% の時間の節約ができると期待していることがわかりました。McAfee MVISION ePO はアジャイルで自動化された管理機能を提供し、脆弱性、セキュリティ ポスチャの変更、そして既知の脅威を、一つのインターフェースで迅速に識別、管理、対応できるようにします。この単一インターフェースを使用して一連のステップをクリックするだけで、セキュリティポリシーを展開及び実行できます。

関連するコンテキストは、管理者がタスクに取り組んで、各ステップと、それが他にどう関係しているかを調べることで見えます。これで複雑さやエラーの可能性を減らすことができます。新規またはアップデートされたポリシーやタスクが展開される前に、間違いが起こる可能性を減らし品質管理をするために承認プロセスを設けるかを選択できます。

コンテキスト ルーティングは、環境、ポリシー、ツールに関するセキュリティイベントの種類と重要度に応じてアラートとセキュリティ対応の管理をします。McAfee MVISION ePO プラットフォームは、問題を迅速に修正するため、セキュリティシステムと IT 運用システムの間のワークフローを自動化できます。

「McAfee ePOは、自動化とオーケストレーションを最初に実現した統合セキュリティの一つです...現在のセキュリティ担当者は、従来のePOの能力を維持しながら、より簡単で効果的なセキュリティ管理を求めています...SaaSとして提供されるMVISIONは、大企業や中堅企業が適切な対応を行えるように、分析、ポリシー管理、イベント処理を統合しています。」

— Frank Dickinson、IDCセキュリティ製品リサーチ担当バイスプレジデント

データシート

一般的なユースケース

- ネイティブ コントロールを持つデバイスを含むすべてのデバイスにポリシーを配備することで、一貫性を保て、また時間も節約できます。
- 各関係者のニーズに合ったセキュリティ コンプライアンス レポートの作成をスケジューリングして時間を節約し、不要で労力のかかる作業を排除します。
- McAfee MVISION ePO コンソールと Microsoft Active Directoryを同期させ、新しいデバイスがネットワークに追加される際にエージェントまたは機械学習セキュリティ ソリューションを配備して、セキュリティ ポスチャを維持します。

迅速な脅威の緩和と修正

McAfee MVISION ePO プラットフォームには、セキュリティ運用スタッフが脅威を緩和、またはコンプライアンスの復元のために変更を実行する際の効率性を上げる高度な機能があります。McAfee MVISION ePO の自動対応機能は、発生したイベントに基づいてアクションを自動で開始します。アクションは簡単な通知や承認された修正作業などです。

自動対応の一般的なユースケース

- 新しい脅威、アップデートの失敗、または優先度の高いエラーを、事前に決定した閾値をもとに判断し、メールで管理者に通知します。
- ホストに不正アクセスがあった場合に外部コミュニケーションを阻止 (コマンドやコントロールを拒否) するポリシーや、または管理者がポリシーをリセットするまでデータ引き出し/外部への送信を阻止するポリシーなど、クライアントまたは脅威イベントに基づいてポリシーを適用します。
- 脅威が検出された際のオンデマンド メモリスキャンなど、システムのタグ付けや修復追加タスクの実行をします。
- ワークロードやコンテナ (デバイス) を、より限定的なポリシーに基づいて自動的に隔離します。
- システムにタグ付けがされると、エスカレーション ステータスが保護ワークスペースダッシュボードに自動的に表示されます。

主な特徴

- セキュリティの状態をグラフィカルに表示するダッシュボード
- 役割ベースのアクセス制御
- 二要素認証
- カスタム レポートとクエリー
- ダウンタイム ゼロのアップグレード
- McAfee® Endpoint Securityと McAfee® VirusScan® Enterpriseの移行支援ツール

McAfeeの技術の機能や効果はシステム構成によって異なり、ハードウェア、ソフトウェア及びサービスの有効化が必要になることがあります。システムは完全に安全になることはありません。

McAfeeはこの文書で言及されたサードパーティのベンチマーク データや Web サイトをコントロールまたは監査していません。言及された Web サイトをご覧になって、データの正確性をご確認ください。



〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂1-12-1
渋谷マークシティウエスト20F
www.mcafee.com/jp

McAfee、McAfeeのロゴ、ePolicy Orchestrator、McAfee ePO、VirusScanは、米国法人McAfee LLCまたは米国またはその他の国の関係会社における登録商標または商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。Copyright © 2018 McAfee, LLC. 4186_1118
2018年11月